

今年も熱かった！体育祭を開催しました

10月2日（金）、コロナ禍で開催が危ぶまれる中、さわやかな秋晴れに恵まれ、無事に体育祭を行うことができました！3学年+PTAの4ブロック対抗で競い合いました。ブロックの象徴は、花と彩で表現し、3年はキンレンカで橙、2年はバラで青、1年はガーベラで赤、PTAはラベンダーで紫でした。午前中は、徒競走、各種リレー、綱引き、大縄跳び、応援合戦など。午後からは、ソフトバレー、アルティメットと多種多様な競技を行いました。能勢小学校の参加もあり、小高交流のゲーム障害物競争では大盛り上がりでした。能勢分校生が一丸となって取り組んだ、素晴らしい体育祭でした。



豊中高校 PTA 能勢ツアー @地域魅力化クラブ

地域魅力化クラブとは？

地域(能勢・豊能)にある魅力を「知る」「探す」「広める」「作る」をキーワードにした活動を行うことを目的に、昨年度発足しました。今年は『能勢カフェ調査』を進めており、一冊の本にまとめて、町内外の人たちにこの地域の魅力を広くアピールしていきます。さまざまな企画を考え、地域の方々と一緒に元気に活動しています！！



10月18日（日）、地域魅力化クラブの1、2年生部員が、豊中高校PTA能勢ツアーで観光ガイドをつとめました。豊中高校PTAの方々12人が、能勢分校を訪ねて能勢ツアーに来られ、妙見山→野間の大けやき→能勢分校農場→能勢分校→けやきの里→妙見口駅と巡りました。妙見口駅でお出迎えし、バスに同乗した生徒達や説明ポイントで待ち構えている生徒達が、それぞれ観光ガイドを行いました。地理、歴史、由緒、起源など、クイズも交えながら、見事な案内でした。参加の方々からは「高校生らしく初々しくていいですね」「あのしゃべりは、高校生とは思えない。素晴らしい」と、好評でした。



分校農場へ



妙見山



大ケヤキにて



能勢町における持続可能なエネルギーについての学習

能勢分校の再生可能エネルギーについての課題研究は平成30年度から始まりました。当時、在ドイツ日本国大使館参事官であった川又氏によるシュタットベルケの紹介がきっかけで、さまざまな分野の方々から講座を受け、再生可能エネルギーについての学習を進めてきました。そして翌年の令和元年9月に、能勢町とともにドイツへのシュタットベルケ視察研修に赴きました。

ドイツ研修以前に、白井ヤンさん家族とは日本への帰国の際、ドイツ文化について話を聞くなど、交流を深めていました。そして、7月20日（月）～9月4日（金）に、ヤンさんがドイツから短期留学生として本校に来ました。コロナ禍の中、彼の強い希望から短い期間でしたが留学が実現し、本校だけでなく能勢町全体に素晴らしい影響がありました。

能勢町における環境学習の取組みは、小中高校と町がひとつとなり、これからも続いていきます。

能勢分校の持続可能なエネルギー学習の取組み

| | | |
|-------|----------------|--------------------------------------|
| 平成30年 | 5月 | 在ドイツ日本国大使館参事官、川又氏来校 シュタットベルケの考えに出会う |
| | 10月～ | 能勢町との連携講座が始まる 分校生、課題探究を始める |
| 令和元年 | 5月 | 能勢町との連携講座を重ねる |
| | 7月 | ヤン君家族 来校、ドイツ文化についてのヒアリング |
| | 9月 | 能勢町とともにドイツ視察研修 分校生、シュタットベルケの課題探究を進める |
| 令和2年 | 7月18日 | 能勢版「寺子屋」始まる |
| | 20日 | ヤン君 能勢分校に来る |
| | 24日 | ヤン君家族にドイツの環境意識についてヒアリング |
| | 7月27日 8月18、26日 | ヤン君 分校各学年にむけて発表 |
| | 8月22日 | ヤン君「寺子屋」にて能勢町住民の方々へ発表 |
| | 24日～ | 能勢町との連携講座始まる |
| | 9月2日 | ヤン君 「家庭基礎」の授業で分校1年生へ環境について発表 |
| | 3日 | ヤン君 能勢小学校の授業でドイツについて発表 |
| | 4日 | ヤン君 ドイツへ帰国 |
| | 10月16日 | 分校1年生が能勢中学校2年生へドイツの環境の取組みについて授業 |
| | 10月30日 | 分校3年生が能勢小学校1年生へ地球温暖化を紙芝居で授業 |



能勢小学校の英語活動に参加



寺子屋にてプレゼン



白井さんファミリーとヒアリング



能勢中学校の家庭科にて環境授業



能勢小学校での地球温暖化授業のリハーサル



今年度GS（グローバルスタディ）の取組み

文科省による本校のSGH（スーパーグローバルハイスクール）の5年間の指定は、2019年度に終了しました。そして、今年度より、その後継事業となる「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の「事業特例校」として3年間の指定を受けています。全学年がGS（グローバルスタディー）課題探究講座を受講し、さまざまな分野の講師や先生方による講義を受け、高校生が能勢町のためにできることは何かを考え、日々課題研究を進めています。8月には、能勢・豊能町で設立した新電力会社の代表取締役を務める榎原友樹氏に来ていただき、能勢町との公開講座を行い、高校生と住民が意見を交換しました。

GS 講座と講師の紹介

▶▶9月15日(火) 1・2年GS 課題探究基礎講座
講師：竹下 友梨氏（ベネッセコーポレーション）

「私がグローバルに活動していたこと～ラオスの地方へe-Educationを」

大学在学時に1年間ラオスへ留学した時の活動についてお話しいただきました。ラオスの情勢、日本との比較、歴史、文化、東南アジア諸国連合と幅広い内容から、地方でのオンライン教育の普及に関わった活動を話されました。授業後の事後学習にも一緒に参加していただきました。

グローバル学習からキャリア学習まで、充実した講座となりました。

▶▶10月7日(水) 2年GS 課題探究基礎講座

講師：荻野 克彦氏（公益財団法人 箕面市国際交流協会理事）

「アメリカの人権問題と人権～多民族国家での人権～」

アメリカでの6年間の駐在経験から、人権問題、アメリカ文化や日米の考え方の違いなどを話していただきました。最近ではBLM（Black Lives Matter）運動が全米に広がっていることについて、黒人差別の根は非常に深く、貧困問題が根底にあり、解決には教育の改善が必要であると話されました。また、能勢分校の地域創生への取組みに触れ、「地域再生に必要なのは地域の長所を生かし、グローバルな視点も取り入れていくことが大切」と話されました。



竹下友梨氏



荻野克彦氏

●能勢町・能勢分校連携講座を開催します●

☞12月7日(月) 1・2年GS 課題探究基礎講座

テーマ【能勢町版シュタットベルケをどうすすめていくか?】

- 講師：川又 孝太郎氏（環境省環境再生・資源循環局事業担当参事官）
- 時間：1年生 5限（13：10～14：00）、2年生 6限（14：10～15：10）
- 場所：本校 視聴覚教室

☞12月21日(月) 3年GS 課題探究基礎講座

テーマ【ポストコロナ社会の『地域』】

- 講師：千葉 知世氏（大阪府立大学 人間社会システム科学研究科准教授）
- 時間：3・4限（10：35～12：25）
- 場所：本校 視聴覚教室



講座はどなたでも、どの講座からでもご参加いただけます。
お申し込みは能勢町または能勢分校ホームページからお願いします。
高校生と一緒に未来について考えましょう！

雑誌、新聞、テレビに能勢分校が取り上げられました！

『City Life 北摂 WEST vol.210』は、北摂地域を中心に配られているフリーペーパーです。同紙での掲載は今回で2回目となり、ドイツでの現地調査や新電力会社設立など、能勢町と高校生が連携し、持続可能なエネルギーの可能性について考え活動する姿が紹介されています。能勢町と高校生のエネルギー事業は始まったばかりで、今後の活躍に注目したいと締めくくられています。

『あまから手帖 10月号』では能勢分校の蜂蜜が取り上げられ、生徒が農場で養蜂に取り組む姿が写真とともに2ページにわたって紹介されています。「昆虫だと思わない。共存する仲間！」という、蜂に対する生徒の言葉も光っていました。

また、『NHK』では、10月9日(金)、「能勢の高校を応援する会」西田会長の銀寄栗に関する特集番組に、能勢高校卒業生、能勢分校3年生が登場しました。卒業生は「能勢町の地域活性化を学び、将来は何らかの形で町の活性化に貢献したい」と話しました。



シティライフ



NHK



あまから手帖

先輩からのエールが届いています！

能勢高校卒業生 (65期生) 齊藤 依乃里さん
立命館アジア太平洋大学 (APU) 1年生



SGH(スーパーグローバルハイスクール)の活動に熱心に取り組み、3年生時に1年間マレーシアのアスンタ高校へ留学しました。大学生になった今、高校生活について、留学について、みなさんへのメッセージです。

高校1年生の時は特にやりたいこともなく、大学進学も自分には程遠い話だと思っていました。ですが、SGHの活動に参加してたくさんのことに挑戦し、いろいろなフィールドで活躍されている方からお話を聞いたことで、すごく刺激を受けることができました。そして、様々な生き方や働き方があることを知り、自分にも多様な選択肢があることに気づけたことで、自分の将来のビジョンをイメージすることができました。

マレーシア留学のきっかけは、SGH 海外実態調査で訪れた国だからです。マレーシアは多民族国家で、マレー系、中華系、インド系、他にも多くの文化が混在しています。また、マレーシア人はとてもフレンドリーで、英語が準公用語であることも留学の決め手になりました。留学中は、姉妹校のアスンタ高校に通いました。みんなとてもやさしく、学校は楽しかったです。もちろん11ヵ月もいればトラブルもありましたが、自分の意見を言う力を身につけることができました。

入学した立命館アジア太平洋大学 (APU) では、様々な国からの学生が学んでおり、授業でグループワークをする機会が多くあります。それぞれが多様な価値観や人生観を持っており、社会常識も異なるので大変なこともあります。能勢高校でグループワークをおこなった経験を活かし、ディスカッションを進めることができます。APU は異文化コミュニケーションを学べる最高の勉強の場だと、日々感じています。

能勢分校には多くのことを学べる機会があるので、それを見逃さず、自分からいろんなことにチャレンジしてください！！

Zoomでのグループワーク風景

右下が齊藤さん。左上がインドネシア、中央上が韓国、右上、左下が日本人です。インターナショナル！

